

【そもそも探究とは】

本校では、総合的な学習の時間を中心に「探究活動（探究学習）」を進めてきました。（校長室から7月1日号参照）

そもそも探究活動とはどんな教育なのでしょうか。

ネットでも「探究」「学校の授業」と検索すると、探究についてのいろいろな取組みが多く紹介されています。このように、今、教育界では「探究」という指導スタイルがトレンドの一つとして位置づけられています。しかし、「探究」という学習スタイルは、以前からも存在し多くの学校で積極的に進められてきました。それが今回の高校の学習指導要領（令和4年度から実施）の改訂にて、大きく教育活動の中心として位置づけられてきたので、なおさらクローズアップされてきたものと考えられます。

探究活動では、その目的の一つに「多様な価値や情報から自ら問題を見つけ出し、（協働しながら）問題解決を行うことにより、深い思考力・判断力・表現力を養う」が挙げられます。ここでは自ら問題を見つけ出すということが大事になってきます。この問題は生徒一人一人にとって同じではありません。ということは、その問題解決の方法も生徒によってバラバラです。生徒によって異なる問題を、意見交換しながら解決していくスキルこそ、10年後の全く新しい社会構造の中で生きていく力となるのです。

もうすこし例を挙げて説明します。今までは「 $1 + 1 = ?$ 」が答えられる生徒を育てることが中心でした。そして、このような問題を短時間で多く解ける力が大事とされてきました。

しかし、探究では「結果が2となるためには、どのような方法が考えられますか？」という問題に対して、「 $3 - 1$ 」や「 $4 \div 2$ 」や「 $1 / 3 + 5 / 3$ 」などいろいろな方法を思いつく力を育てたいのです。すなわちたくさんの解決方法から、その時に必要な解決策を見出す力を育てていくのです。さらには、例えば「 $4 \div 2$ 」という方法を選んだ生徒は、なぜたくさんの解決方法からそれを選んだのか説明できなければいけません。

もちろん、探究という学習スタイルには様々の方法があります。私が説明した内容はその一つでしかありません。

繰り返しになりますが、多様な価値や情報が存在し、明らかな正解がないこれからの社会においては、自ら考えて答えを求めその理由を説明できる人材を育てることが大事になってくるのです。本校ではこのような探究活動を積極的に進めていきます。

